

小山コース

御山と尊称され、地頭職早岐氏の本拠地であった小山山周辺を訪ねる

スタート地点までのアクセス
桜町バスターミナルから産交バス（約40分）
G1-5 免許センター行き（山一の口バス停下車）

1 小山上観音堂



御本尊は、石造りの十一面千手觀世音立像。昔、鹿島瀬河原に流れ着いた觀音様を見つけて小山に持ち帰り、付近8戸でお祀りしてきたと言ふ。境内には五輪塔の火輪2個があり、中世の面影を残している。

2 小山上天満宮



神体は一本造りの天神座像で、延享4年（1747）の山鹿新町仏師島田善兵衛の作。堂の東手に旧水源があつて、現在もわずかながら湧水がある。

3 今村の不動堂



木彫りの火炎を負う不動明王で、祭りは9月28日、組内13名で管理。古者の話では文久3年（1863）頃の建立ではと云われているが、現在の堂は昭和26年の建立である。

4 棚谷寺入口觀音地蔵



中央に觀音座像、右に薬師如来・左に地蔵像の三体を祀つてある。地蔵は50体の地蔵尊を祀つたと云われる熊本源空寺の弟子円心の11体目とされている。なお、9体目が神園コース⑥にある。

5 宝積山棚谷寺



曹洞宗に属し、本尊は地蔵菩薩。肥後国誌によると大智禪師の開基で正平年間（1346～1370）に草創したとされている。寺の由来では、正平2年（1347）大智禪師・菊池武光が先靈菩提のため創立。七堂伽藍四十九院であったが、第6世梅林和尚の時、戦火で焼失。正保2年（1645）明室察和尚が中興。現住職は14代目である。

6 小山若宮神社

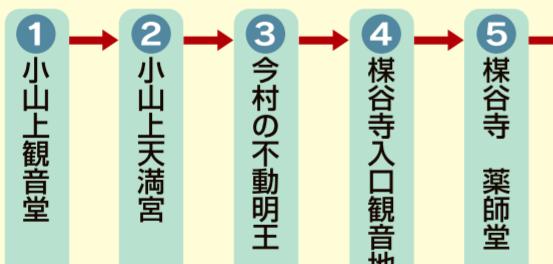


祭神は仁徳天皇。御神体は一本造りの男女神。「国郡一統志」小山の項に「若宮」とあるので、創建は寛文7年（1667）以前であることは間違いない。平成20年に鳥居が新設、案内標木も石柱に交代されている。

スタート・ゴール
至 熊本県民総合運動公園

モデルコース

所要時間：約90分
消費カロリー：約225kcal



こちらも
オススメポイント！

1 小山上地蔵堂

1間×1.5間の小堂である。正面壇上に、蓮華座の上に立っている石地蔵は両手に宝珠を持っている。「奉寄進 善西」「明和5年（1768）12月吉日」と刻んである。

2 小山馬場の板碑

戦国初期のもので、静心禪門の供養に建てられた順修碑である。板碑の中心に彫られているのは、「阿弥陀三尊」來迎圖阿弥陀如来・觀音と勢至菩薩」で年号や日付は欠けているが、十月のみ残っている。現在、託麻新四国八十八ヶ所58番札所でもあり、十一面觀音と薬師如来も祀つてある。

3 小山下地蔵堂

棚谷寺に属する寺内の馬場崎蓮掘横に安置された順修碑である。板碑の中心に彫られているのは、「阿弥陀三尊」來迎圖阿弥陀如来・觀音と勢至菩薩」で年号や日付は欠けているが、十月のみ残っている。現在、託麻新四国八十八ヶ所58番札所でもあり、十一面觀音と薬師如来も祀つてある。

4 中山坂組地蔵

地蔵には正面に「奉寄進」「宝曆六子天（1756）12月吉日」と刻んである。

5 中山阿弥陀堂

中央に「阿弥陀の石像」、右に「毘沙門天の木像」、左に「地蔵の石像」が祀られている。託麻新四国八十八ヶ所の57番札所でもある。

6 正平塔

通称「正平塔」と呼ばれる石塔で熊本市指定文化財である。彫刻が四面に施された南北朝時代の傑作であり、正平12年（1357）7月の石工藤原助次次の作である。この地が南朝方の勢力範囲であったことがうかがえる数少ない貴重な塔である。

7 小山城址

山城で城床や堀切などの遺構が残るが城主氏名は不明。南山麓には「屋敷・馬場の前・延喜木戸」の地名があり、「陣内・蓮運・本陣」などの微小地名が残っていることから小山村の地頭職であつた早岐氏一族の居城とも、また一節には天正13年（1585）に島津勢が合志郡の今石城を攻めた時の陣跡であるとも言われている。

8 今村の天満宮

国群一統志には小山に天神森と記されているので寛文7年（1667）頃に出来たものと思われる。昭和62年（1987）に改築された。※国群一統志…江戸時代に北山雪山によってまとめられた歴史書

10 小山諏訪神社



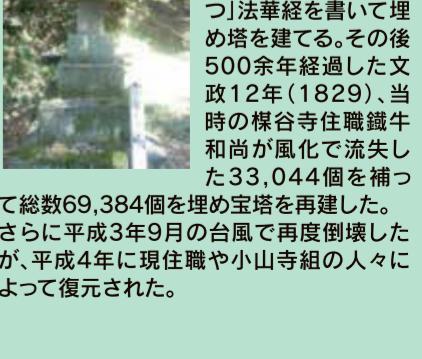
承平5年（935）、承平・天慶（てんきょう）の乱の平将門・藤原純友追討討願のため創建されたと伝えられている。祭神は「建御名方富命（たけみなかたのみこと）・八坂刀売命（やさかとめのみこと）・大国主命」。神殿には大鏡4本・鏡3脚が奉祀しており、農業の神・開拓の神・水の神として崇敬されている。

11 大智禪師の座禅石



大智禪師が座禅の業を行つたと伝えられる巨岩。現在は巨岩の上に不動明王が昭和31年に建立されている。その傍らに託麻新四国八十八ヶ所54番札所がある。

12 棚谷寺の一宇一石塔



正平年間（1346～1370）、大智禪師が「一つの石に一字づつ」法華経を書いて埋め宝塔を建てる。その後500余年経過した文政12年（1829）、当時の棚谷寺住職鐵牛和尚が風化で流失した33,044個を埋め宝塔を再建した。さらに平成3年9月の台風で再度倒壊したが、平成4年に現住職や小山寺組の人々によつて復元された。